Ishikawa Prefectural Rehabilitation Center News

2005/1
Vol.17

石川県リハビリテーションセンターニュース

目　次

今年度の取り組み …… 1
平成15年度　地域リハビリテーション課題調査結果 …… 2
地域活動支援状況 …… 3
バリアフリー推進工房の活動 …… 4
研修会報告 …… 5
冊子の紹介 …… 6

今年度の取り組み

自立した在宅生活がおくれるような社会実現に向けて

所長　島　　巌

当リハビリテーションセンターも、開設以来11年目に入りました。10年のこれまでの歩みを振り返り、それを足台にさらに発展していかなければと考えております。

特に現在力を入れているのは地域リハビリテーションの支援体制整備であり、連携指針が策定されて３年目になります。その取り組みの中で昨年度４医療機関の協力を頂き、脳血管疾患で入院し、リハビリテーションを受けられた方の家庭復帰１年後の状況について、アンケート記載による調査を行いました。その結果、退院時に障害老人の日常生活自立度が「自立」であったにもかかわらず、悪化した方が約４割にのぼることが分かりました。その方々は趣味や社会的役割を喪失している傾向がみられ、医療リハビリテーション以外のＱＯＬを高めるサービスも大切であるように思われました。市町村の生き甲斐作りなどの支援サービスにつなぎ、住民をサポートする必要性を痛感させられました。

また、地域全体で住民を支えていくためには、住民の身近な相談窓口である市町村と医療機関との連携が必要であるとの観点から、今年度、県４カ所の医療機関と６カ所の市町村の協力を得て、退院時、医療機関から市町村に患者情報を提供する連携を試験的に試みております。経過をみると、市町村側は、リハビリ計画を立案するにあたり医療機関からのリハ情報は非常に有意義で必要であるとの認識を持っているようです。まだ、連携して日が浅いため、効果の検証が十分でなく、医療機関にフィードバックするに至っておりませんが、医療機関の先生方にも、連携によって患者様のＡＤＬやＱＯＬが維持もしくは向上する効果などをお見せし、リハ情報の提供の有効性を理解して頂くことが出来ればと願っているところです。

自立した在宅生活が安心しておくれるような社会実現に向けて、個々に支援しながら、地域全体で住民を支えていく体制作りに努力したいと思っています。

平成15年度　地域リハビリテーション課題調査結果

平成15年度に、県内４医療機関のご協力をいただき、脳卒中で入院し、リハビリテーションを受療した方を対象に、１年後の状況調査を行いました。その結果の一部をここでご紹介させていただきます。

調査の概要

1　調査時期；平成15年10月～平成16年１月

2　調査対象及び方法

1）所在調査（一次調査）

①　対象者；脳卒中を発症して急性期から入院し、入院中にリハビリテーションを受けた者で、平成13年10月１日から平成14年９月30日の間に協力医療機関を退院した者

②　方　法；往復ハガキを使用した郵送法による自己記入式調査

2）本人の現状把握調査（二次調査）

①　対象者；一次調査で自宅に退院し、かつ、現在も自宅にいると回答があった者

②　方　法；郵送法による自己記入式調査

3）協力医療機関保存資料に基づく対象者の状況把握（三次調査）

①　対象者；一次調査及び二次調査回答者

②　方　法；医療機関保存資料から調査票への転記調査

調査結果から

今回は、二次・三次調査の結果からご紹介いたします。

区分			退院時 計	自立	ランクJ	ランクA	ランクB	ランクC	不明
現在	計	数	94	31	21	13	7	1	21
		%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	自立	数	33	18	5	2			8
		%	35.1	**58.1**	23.8	15.4			38.1
	ランクJ	数	28	**10**	8	5			5
		%	29.8	**32.3**	38.1	38.5			23.8
	ランクA	数	20	**3**	**5**	3	3	1	5
		%	21.3	**9.7**	**23.8**	23.1	42.9	100.0	23.8
	ランクB	数	6			**3**	1		2
		%	6.3			**23.1**	14.3		9.5
	ランクC	数	2				**2**		
		%	2.1				**28.6**		
	不明	数	5		3		1		1
		%	5.3		14.3		14.3		4.8

退院時に医療機関が判断した「障害老人の日常生活自立度（寝たきり度）」のレベルより、現在の寝たきり度が悪化している者は、全体の24.5%いました。また、寝たきり度が退院時に「自立」であった方のうち、41.9%の方に寝たきり度の悪化が見られました。

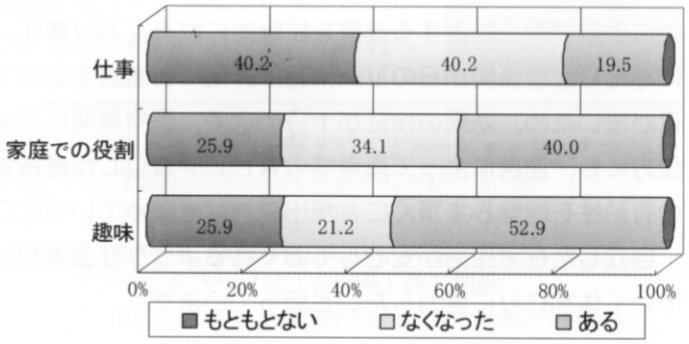
このことから、医療機関が退院時に障害がなく自立した生活を送れると判断された方であっても、一年後である「現在」は、外出等には何らかの障害があることが分かります。

※ □ は、悪化群……23名（24.5%）

※ ■ は、改善群……16名（17.0%）

また、生活の状況をみると、発症前には仕事や家庭での役割、趣味があった方でも、発症後、なくなった方が多く見られました。

このことは、直接、寝たきり度の低下に結びつくとは言えませんが、障害があっても、より活動的な生活を送るためには、日常生活動作以外の趣味や社会的な役割など、生きがいを退院後も継続していくための支援が必要であると感じました。



地域活動支援状況

活動紹介

医療・保健・福祉の関係機関から、リハビリテーションに関する技術的支援・協力の依頼を受け、支援を行っています。

身体に合った車いすの適合（施設編）

1 車いすの適合とは

長時間車いすで過ごす方にとって、車いすが身体に合わないと誤嚥し易くなったり、疲れやすくなったり、斜め座り・滑り座り等の原因となり、身体的弊害や精神的苦痛につながります。

あなたの施設には、車いすからずり落ちたり、頭から転倒したりする方はいませんか？　それは、車いすが合っていないことにより起きているのです。

2 どんなサポートが受けられるの？

車いすの適合に施設が取り組むとき、その方法についての研修や困難事例の適合について、施設に出向いて支援を行います。

対象に合った体操の作成（デイサービス編）

1 対象に合った体操とは

体操は、立ちしゃがみをスムーズに行えるようになりたい、体力をつけたいなど、どういう機能を高めたいかによって体操メニューが異なります。高めたい能力に応じた体操を作成しています。

2 デイサービスへの具体的な支援内容

デイサービスに通所されている方の自立に向け、軽度者の立ちしゃがみや歩行能力の向上を目的に、下肢筋力の強化に重点を置いたプログラムを作成しました。

デイサービスが通所されている方の自立を支援したい、身体の機能を上げたいと考えているとき、その具体的な方法について施設に出向き、体操作成やその具体的な方法の提案などの支援を行います。

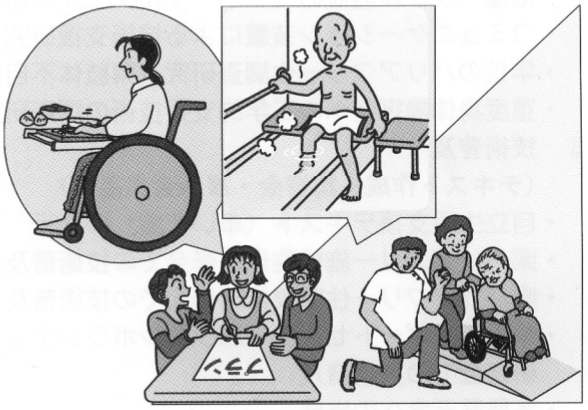
在宅ケースへの支援

在宅で生活している障害のある方の自立に向けた活動を支援しています。

- 日常生活動作などやその他の能力の評価
- その方の能力を引き出すための環境整備
- 自立に向け福祉用具の導入や適合

などの支援を行っています。

具体的には「本人の能力に応じた電動車いすを処方したいが、やったことがないので分からない」、「能力が落ちてきて、日常生活全般を見直したいが、方法が分からない」など、支援者が対象者を支援したいことをリハビリテーションの専門機関としてサポートしています。



依頼をするには…

県では、地域のリハビリテーションを推進するため、サポート体制を整えています。

住所地の市町村にご相談ください。

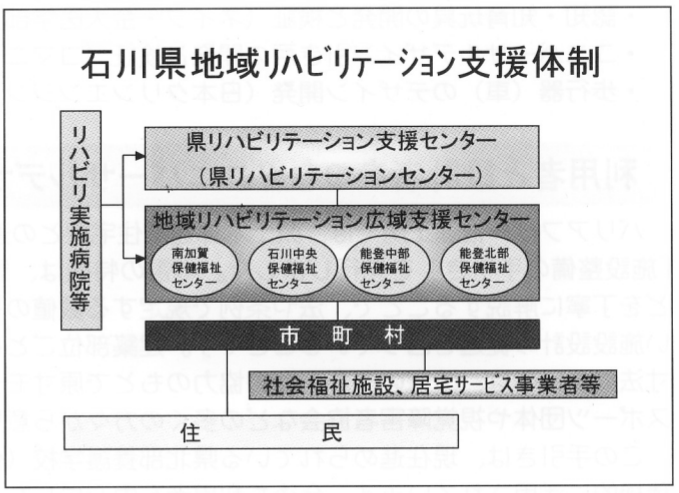
また、40歳以下を対象とした施設や医療機関からは、直接依頼を受けております。

お気軽にご相談ください。

【お問い合せ先】

石川県リハビリテーションセンター　指導課

電話：(076) 266－2866　FAX：(076) 266－2864



バリアフリー推進工房の活動

平成16年度の活動状況

●既製品で解決できない福祉用具や住環境の相談に対して、医療、工学、建築の総合技術を駆使して応援しています。

これまでに行った「電動車いす適合評価研究」で開発した同評価機器を利用し、実際のケースに工学的技術支援を行った事例です。電動車いす適合現場での利用が可能です。

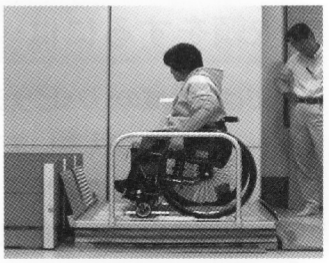
●福祉用具や住環境に関する課題やニーズを当事者とともに体系的に整理し、基礎研究や技術普及につなげています。

1　研究会（福祉用具、住環境の課題およびニーズ整理）
- 視覚障害者の誘導を考える会
- 水まわり環境ユニバーサルデザイン研究会

2　研究内容（ニーズの高い福祉用具、住環境の基礎的研究開発および調査研究）
- 色覚シミュレーションシステムの開発
- 電動車いす駆動特性研究
- 公共建築のユニバーサルデザイン研究（県北部養護学校（仮称）、県総合スポーツセンター（仮称）の検討）
- 浴室・プール施設のユニバーサルデザイン研究（更衣・シャワー室の検討）
- コミュニケーション装置による技術支援研究
- 学校のバリアフリー化調査研究（県肢体不自由児協会の協力によるアンケート調査）
- 重度身体障害者への工学的支援技術の調査研究（県作業療法士協会の協力によるアンケート調査）

3　技術普及
（テキスト作成・講習会・展示会出品等）
- 自立生活支援テキスト（車いす編）の発行
- 県バリアフリー施設整備研修会での技術普及
- 県バリアフリー住宅改修研修会での技術普及
- 県ＩＴサポートセンターパソコンボランティア研修会での技術普及
- 各種展示会への出展
（県バリアフリー社会推進県民大会ほか）

●石川県バリアフリー機器等開発研究調査会の会員企業をはじめ、県内企業の研究開発を支援しています。
- 無動力段差解消機の開発と検証（富士製作所・金大工学部）
- 視覚障害用柄認識システムの開発と検証（北計工業）
- 認知・知育玩具の開発と検証（ネイブ・金大医学部）
- ユニバーサルデザイン引き戸の開発と検証（コマニー）
- 歩行器（車）のデザイン開発（日本クリンエンジン）



利用者と設計者をつなぐユニバーサルデザインを推進！

バリアフリー推進工房では、県土木部建築住宅課との連携により、県の施設整備マニュアルの改訂作業を行い、「施設整備の手引き」を発行しました。本書の特徴は、設計者に対して高齢者や障害者の身体特性や動作能力などを丁寧に解説することで、法や条例で規定する数値のもつ意味を理解してもらい、より多くの人が利用しやすい施設設計の促進を図っていることです。建築部位ごとに動作能力と環境のあり方を図説し、不確定要素の強い寸法については、障害のある方々の協力のもとで原寸モデルによる検証実験を行いました。さらに、身体障害者スポーツ団体や視覚障害者協会などの多くの方々から意見を求め、手引きの内容充実に努めました。

この手引きは、現在進められている県北部養護学校（仮称）や県総合スポーツセンター（仮称）などの設計に積極的に活用されています。今後も利用者を中心にしたユニバーサルデザインの推進を図っていきます。

研修会報告

今年度当センターで企画した研修会が、あと数回を残すのみとなりました。どの研修会も盛況で、リハビリテーションの知識や技術などに関する関心の高さが窺われました。来年度もご協力頂いたアンケートを参考にしながら、皆様の仕事に役立つ研修会を企画していきますので、多数のご参加をお待ちしております。

今年度行った研修の中から、２つの研修会のご報告をしたいと思います。

福祉用具活用研修会 ～杖・歩行器～

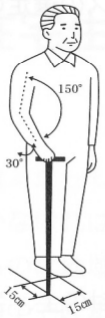
当センターでは、高齢者や障害のある方の日常生活を支える福祉用具等について、身体能力や生活にあった適切なものを選択できるよう、研修会を実施しています。

今年度は、要望が一番多かった「杖・歩行器」をテーマとしました。内容は歩行のメカニズムや基本動作、杖・歩行器についての基礎知識、生活の中の活用方法について、実際に福祉用具の体験を通して行いました。特に体験場面では、段差や狭い通路、階段など、実際に動作を行ってもらうことで種類毎の特性を理解していただきました。受講者からは、「杖の長さのあわせ方がわかった。帰ったらすぐに実践したい。」という声や、「普段カタログだけで実際に触れる機会がなかったのでよかった。」という声などがきかれました。

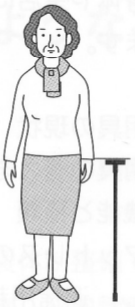
ワンポイントアドバイス

一般的な杖の長さのあわせ方は３つの方法があります。あわせやすい方法で行ってみて下さい。

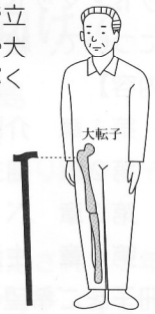
(1) つま先から前へ15cm、外側へ約15cmに杖先を置いて、肘を30度ほど（軽く曲げる程度）曲げた時に握り手がくる高さ



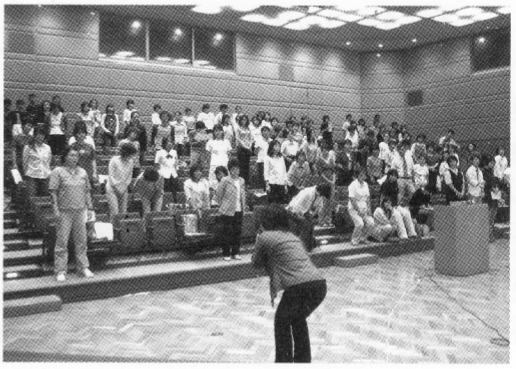
(2) 自然な姿勢で立ち、腕の力を抜いて手を下げた時の手首(尺骨茎状突起)に握り手がくる高さ



(3) 自然な姿勢で立った時の大腿骨大転子に握り手がくる高さ



排泄に関する研修会



排泄に関する基礎的な知識からアセスメントの仕方・ケアの仕方・排泄動作の見方・排泄に関する福祉用具などの技術などを学び、さらに知識を深めるために事例検討や多職種との連携のあり方など、５回シリーズで開催しました。毎回受講者が100名を越え、関心の高さを感じました。

事後アンケートでは、日常業務で困っている事としてアセスメントの仕方やケアの仕方を上げた受講者が半数を占めていました。

それに対し、講師の先生方は「まずは正常な排泄機能を知識として持つ事が大事で、客観的なデータを把握し、アセスメントする事からその方にあったケアの仕方が見えてくる」とのお話がありました。

先生方の講義は非常に分かりやすく、受講者からも「分かりやすかった」、「さっそく業務に取り入れていきたい」との声が聞かれました。

ワンポイントアドバイス

尿失禁は大きく５つに分類されます。

①腹圧性尿失禁：くしゃみなどお腹に力がかかる動作で漏れる。

②切迫性尿失禁：強い尿意を感じて我慢できずに、勢いよく漏れる。頻尿を伴うことが多い。

③頻尿：排尿回数が多い（１日10回以上で生活に支障がある状態）尿漏れはない。

④溢流性尿失禁：膀胱に充満した尿がじわじわと溢れ出るように漏れる。尿が出しにくく出し切れない。

⑤機能性尿失禁：排泄に関わる動作がうまくできず漏れる。高齢者や障害者に多い。

①から④については泌尿器科的問題があり、服薬などの治療により改善する可能性があります。また、⑤については環境設定や福祉用具の利用により改善する事も可能です。まずどのタイプに分類されるのかアセスメントは必要ですが**「尿が漏れたからオムツ」と短絡的に考えず、自分が同じ立場になったら…ということを考えながら接していきましょう。**

冊子の紹介

生活環境づくり　～ベッド・マットレスの選定～

昨年度介護支援専門員や施設職員の方を対象に行った研修内容を冊子にまとめました。ベッド・マットレスの種類・特徴や身体や生活にあったベッド・マットレスの選定の仕方について、絵や図で説明されています。

【内容】

第１章　介護保険における福祉用具の現状

第２章　自立を促すための福祉用具の考え方

第３章　ベッド・マットレスの機能と種類

第４章　生活にあったベッド・マットレスの適合の考え方

冊子をご希望の方は１施設１冊とし、返信用封筒（切手代200円）を同封の上、当センターまでお申し込み下さい。

地域リハビリテーションガイドブック

平成14年度、平成15年度に県内の40歳以上の方を対象とした地域リハビリテーション社会資源調査の結果を「地域リハビリテーションガイドブック」としてまとめました。内容は、県内のリハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の配置状況（常勤者のみ）と、40歳以上の方の生活を支援するサービスについて、生きがい・外出・食など各７項目を市町村別に記載しました。現在、病院、診療所、市町村へ配布し、皆様からご好評を頂いています。今後も皆様の活動等にこの冊子を活用して下さればと思います。

尚、ガイドブックの内容は、当センターのホームページに近く掲載をする予定にしておりますので、ご自由にご覧ください。

編集・発行　石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353　金沢市赤土町ニ13－１
TEL（076）266－2866　FAX（076）266－2864
E-mail iprc@pref.ishikawa.jp
ホームページは「石川県」版に開設
http://www.pref.ishikawa.jp/kousei/rihabiri